



114
A2270



明治十四年三月

參議大隈重信

大隈正
侯爵邸
印
明治十一年四月

會計検査院ノ章程タル未々精確、モ、之レナク昨年
該院創設ノ際暫ク従前大蔵省検査局ノ定規ニ依リ事
務辦理スヘキ旨達セラレ職制、如キモ單ニ検査官ノ
制ヲ立ルニ止リ當時猶ホ其職掌ヲ明示スルニ至ラサリ
シナリ是ニ因テ爾來各國ノ法制實際ノ便否ヲ酌量シ確
的ナル章程ヲ調査ニ從事シ方ニ漸ク其草案ヲ製スル



ヲ得タリ又従前會計ノ法規タル諸種數回ノ達シ若クハ隨事ノ指令若クハ一省一局限リノ定規ヲ認可シタルモノニ係ルヲ以テ頗ル繁雜ヲ極メ前後ノ令達或ハ互ニ矛盾若クハ重複ナキヲ免カレス令之ヲ取捨折衷シテ幾許ハ補正ヲ加ヘ以テ會計法規ノ綱領ヲ固定シテ其規格ヲ條列明晰ナラシムルハ寔ニ政務改良ノ一端ニシテ急要ノ事業タルヲ以テ是亦章程ト同時ニ之ヲ調査シテ爰ニ會計法草案一編ヲ選修シタリ然リ而シテ以上ノ草案ハ脱稿ノ後法制部ヨリモ特ニ委員ヲ要メテ協議査閲ヲ經タルヲ以テ幸ニ御裁可ヲ蒙ラハ

速ニ御發表相成度謹テ仰高裁候也

達案

官省院使廳府縣

會計法左，通相定候條此旨相達候事

同

同

會計檢查院職制章程左，通更定候條此旨相達候事

會計検査院章程

第一條

會計検査院ハ政府ノ歳計ヲ審査監督シ會計法規ノ統一ヲ主持スル所トス。

第二條

歳入出豫算ノ當否ヲ審査シ其意見ヲ内閣ニ具申ス

第三條

官金及ヒ物品ノ出納官有財産管理ノ方ヲ監査ス

第四條

會計検査上ニ於テ各事業ノ審査ヲ要スル時ハ其實況ヲ視察シ其得失ヲ内閣ニ具申スルヲ得

第五條

國庫及ヒ各廳收支ノ決算ヲ審査判定シ當該會計官吏ニ向テ決算ノ狀ヲ宣告ス

第六條

前條ニ依リ為シタル宣告ハ終審ノモノトス但内閣ニ於テ其宣告ヲ不當ト認メタル時ハ更ニ本院ニ下シテ再審セシメ又ハ特別委員ヲ命シテ審理セシムルヲ得

第七條

歳入出決算ノ報告及ヒ行務ノ年報ヲ調整シ之ヲ内閣ニ進呈ス

第八條

會計ニ関スル法律規則及ヒ院中處務課定ノ創定釐革ニ付其意見ヲ内閣ニ建議スルヲ得

第九條

會計ニ関スル法規ノ疑條ヲ辨明シ之ヲ各廳ニ通知スルヲ得

第十條

會計検査上ニ於テ各事業ノ審査ヲ要スル時ハ其實況ヲ視察シ其得失ヲ内閣ニ具申スルヲ得

第五條

國庫及ヒ各廳收支ノ決算ヲ審査判定シ當該會計官吏ニ向テ決算ノ狀ヲ宣告ス

第六條

前條ニ依リ為シタル宣告ハ終審ノモノトス但内閣ニ於テ其宣告ヲ不當ト認メタル時ハ更ニ本院ニ下シテ再審セシメ又ハ特別委員ヲ命シテ審理セシムルヲ得

第七條

歳入出決算ノ報告及ヒ行務ノ年報ヲ調整シ之ヲ内閣ニ進呈ス

第八條

會計ニ関スル法律規則及ヒ院中處務課定ノ創定釐革ニ付其意見ヲ内閣ニ建議スルヲ得

第九條

會計ニ関スル法規ノ疑條ヲ辨明シ之ヲ各廳ニ通知スルヲ得

第十條

會計法第四十條
第九條
第十條

地方稅收入支出ノ豫算及ヒ決算報告ヲ查閱ス

第十一條

會計主務官吏會計ノ法規ニ依違シタル時ハ懲戒ノ斷案ヲ草シ其奏任以上ニ係ル者ハ内閣ニ上申シ其判任以下ニ係ル者ハ所屬長官ニ通報ス但刑法ニ明文アル者ハ一面以テ之ヲ檢事ニ告知ス

第十二條

會計檢査院ヨリ發スル文書ハ院長ノ名ヲ以テシ其決算ノ狀ヲ宣告スルモノ及ヒ懲戒ノ斷案ハ主任ノ檢査官之ニ連署ス

會計檢査院職制

長

本院ノ官吏ヲ統率シテ主管百般ノ事務ヲ總理ス本院官吏ノ進退黜陟奏任以上ハ之ヲ具狀シ判任已下ハ之ヲ專行ス

副長

職掌長ニ亞ク

以上勅任

一等檢査官

太
文
官

二等検査官

三等検査官

四等検査官

官金及物品出納官有財産管理方、監査歳計、豫算決算ニ係ル事務ニ分任シ會計主務官吏懲戒ノ斷案ヲ調整ス

定員拾人

大書記官

權大書記官

少書記官

權少書記官

院長官房、事務及ニ院中、庶務會計記録ヲ幹理ス

大少書記官、内二人ヲ定員トス

以上奏任

検査官補

相當ハ等官ヨリ
十七等官ニ至ル

検査官ニ属シ検査ノ事務ニ従事ス検査官事故アル中、其事務ヲ代理スルヲ得

定員七拾五名

属

相當ハ等官ヨリ
十七等官ニ至ル

書記官ニ属シ文書計算ノ事務ニ従事ス

會計法

太
文
官

會計法

第一章 總則

第一條 凡ソ會計ハ豫算ニ起リ之ニ據テ出納シ
決算ニ結了ス

會計年度

第二條 會計ハ其年七月一日ヨリ翌年六月三十
日ニ至ルヲ以テ一周年度トシ甲年ノ收支ニ係ル金
額ヲ以テ乙年ノ收支ニ混用スルヲ得ス

會計區分

第三條 會計ヲ大別シテ常用準備ノ
用準備ヲ分テ各歳入歳出ノ二部トス

第四條 常用歳入出ハ經常臨時ノ二部ニ區分シ

會計法

第一章 總則

第一條 凡ソ會計ハ豫算ニ起リ之ニ據テ出納シ
決算ニ結了ス

會計年度
第二條 會計ハ其年七月一日ヨリ翌年六月三十
日ニ至ルヲ以テ一周年度トシ甲年ノ收支ニ係ル金
額ヲ以テ乙年ノ收支ニ混用スルヲ得ス

歲計區分
第三條 歲計ヲ大別シテ常用準備ノ二種トシ常
用準備ヲ分テ各歲入歲出ノ二部トス

第四條 常用歲入出ハ經常臨時ノ二部ニ區分シ

準備金ノ出納
ナレト雖モ一服ニ係
ルハ其ノ額ニ依リテ
ノ際ニ係リテ之ヲ
ノ際ニ係リテ之ヲ
ノ際ニ係リテ之ヲ

會計法

第一章 總則

第一條 凡ソ會計ハ豫算ニ起リ之ニ據テ出納シ
決算ニ結了ス

第二條 會計ハ其年七月一日ヨリ翌年六月三十
日ニ至ルヲ以テ一周年度トシ甲年ノ收支ニ係ル金
額ヲ以テ乙年ノ收支ニ混用スルヲ得ス

第三條 歳計ヲ大別シテ常用準備ノ二種トシ常
用準備ヲ分テ各歳入歳出ノ二部トス

第四條 常用歳入出ハ經常臨時ノ二部ニ區分シ

準備金ノ出納ハ官廳間ニ明示スルハ始ケ
ナレト雖モ一般ニ公布スルハ世ノ疑ヲ著ラシ
キニシテ之ヲ歳入出ラ區別スヘシト明掲ス
ルハ或ハ月家種ヲ看テテ充テサルヲ
ツテシ難シ南回重ヲモフ

歳入出科目

準備歳入出ハ本部減債ノ二部ニ區分ス

第五條 歳入科目ヲ分テ大科目小科目トス但科目ノ解疏ハ明治 年月 第 号達ニ據ルヘシ

第六條 歳出科目ヲ分テ大科目中科目小科目トシ小科目ヲ分テ細科目トシ細科目中附スルニ細節ヲ以テス但科目ノ解疏ハ明治十二年 月 第 五十号 達ニ據ルヘシ

第二章 歳入出豫算

第七條 歳入出豫算ハ各廳ノ申牒ニ就キ大蔵省之ヲ調理統計シ會計検査院ノ審査ヲ経内閣ノ決定

豫算調理

ニ成ルモノトス

第八條 各廳ニ於テハ豫算調書ヲ調整シ各科目ニ就キ其負額ヲ掲載シ前々年度ノ實額及ヒ前年度ノ豫算額ヲ傍記スヘシ但豫算調書々式ハ別段ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第九條 各廳(府縣ヲ除ク)ハ前年度十二月二十日マテニ其豫算調書ヲ大蔵省ヘ送付スヘシ

第十條 國庫ノ收支ニ係ル府縣ノ歳入出豫算前年度十二月二十日マテニ該廳ヲ發シ之ヲ大蔵省ヘ送付スヘシ

歳入出科目

準備歳入出ハ本部減債ノ二部ニ區分ス

第五條 歳入科目ヲ分テ大科目小科目トス但科目ノ解疏ハ明治 年月 第 号達ニ據ルヘシ

第六條 歳出科目ヲ分テ大科目中科目小科目トシ小科目ヲ分テ細科目トシ細科目中附スルニ細節ヲ以テス但科目ノ解疏ハ明治十二年 月 第 五十号 達ニ據ルヘシ

第二章 歳入出豫算

第七條 歳入出豫算ハ各廳ノ申牒ニ就キ大蔵省之ヲ調理統計シ會計検査院ノ審査ヲ経内閣ノ決定

豫算調理

ニ成ルモノトス

第八條 各廳ニ於テハ豫算調書ヲ調整シ各科目ニ就キ其負額ヲ掲載シ前々年度ノ實額及ヒ前年度ノ豫算額ヲ傍記スヘシ但豫算調書々式ハ別段ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第九條 各廳(府縣ヲ除ク)ハ前年度十二月二十日マテニ其豫算調書ヲ大蔵省ヘ送付スヘシ

第十條 國庫ノ收支ニ係ル府縣ノ歳入出豫算ハ前年度十二月二十日マテニ該廳ヲ發シ之ヲ大蔵省ヘ送付スヘシ

府縣國庫
豫算前

準備歳入出ハ本部減債ノ二部ニ區分ス

第五條 歳入科目ヲ分テ大科目小科目トス但科目ノ解疏ハ明治 年月 第 号達ニ據ルヘシ

第六條 歳出科目ヲ分テ大科目中科目小科目トシ小科目ヲ分テ細科目トシ細科目中附スルニ細節ヲ以テス但科目ノ解疏ハ明治十二年 月 第 五十号達ニ據ルヘシ

第二章 歳入出豫算

第七條 歳入出豫算ハ各廳ノ申牒ニ就キ大蔵省之ヲ調理統計シ會計検査院ノ審査ヲ經内閣ノ決定

ニ成ルモノトス

第八條 各廳ニ於テハ豫算調書ヲ調整シ各科目ニ就キ其負額ヲ掲載シ前々年度ノ實額及ヒ前年度ノ豫算額ヲ傍記スヘシ但豫算調書々式ハ別段ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第九條 各廳(府縣ヲ除ク)ハ前年度十二月二十日マテニ其豫算調書ヲ大蔵省ヘ送付スヘシ

第十條 國庫ノ收支ニ係ル府縣ノ歳入出豫算ハ前年度十二月二十日マテニ該廳ヲ發シ之ヲ大蔵省ヘ送付スヘシ

府縣ノ國庫ノ收支ニ係ル豫算ハ前年度ニ

第十一條 大藏省ハ前數條ノ豫算調書ヲ以テ統計豫算書ヲ調整シ豫算調書ト共ニ四月十日マテニ太政官ヘ進達シ太政官ハ直ニ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第十二條 大藏省ハ統計豫算書調理ノ際其増減ヲ要スルモノハ各廳開申ノ事由ト大藏卿ノ意見トヲ詳記シ統計豫算書ト共ニ之ヲ太政官ヘ進達スヘシ
第十三條 會計検査院ハ豫算調書統計豫算書及ヒ大藏卿ノ意見書ヲ審査ノ為メ四月十五日ヨリ検査官ノ會議ヲ開キ五月二十日ヲ限リ之ヲ議了シ直ニ

太政官ヘ進達スヘシ

第十四條 太政官ニ於テハ會計検査院ヨリ進達シタル豫算書ヲ審議シ六月五日マテニ之ヲ決定スヘシ

第十五條 各廳(府縣ヲ除ク)ニ於テハ豫算上決定シタル小科目以上ノ費額ハ太政官ノ特別ノ許可ヲ得ルニアラサレハ彼此流用スルヲ得ス若シ太政官ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院及ヒ大藏省ヘ通知スヘシ

第十六條 府縣ニ於テ小科目以上ノ流用ヲ要スル

費額ノ流用
歳入出ノ増減

太政官

時ハ其事由ヲ大藏卿へ具申シ其許可ヲ受クヘシ但
大藏卿ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院へ通
知スヘシ

第十七條 各廳ニ於テ豫算外臨
時ハ其事由ヲ太政官へ具申シテ許可ヲ受クヘシ太
政官ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院及ヒ大
藏省へ通知スヘシ

第十八條 府縣ニ於テ第十七條ノ場合アル時ハ其
事由ヲ大藏省へ具申シ大藏省ハ之ヲ太政官へ具申
シテ其許可ヲ請フヘシ太政官ニ於テ之ヲ許可シタ

ル時ハ會計検査院へ通知スヘシ

第十九條 各廳ニ於テ歳入豫算上ニ増減ヲ生スル
時ハ之ヲ大藏省へ通知シ大藏省ハ之ヲ太政官へ上
申シ會計検査院へ通知スヘシ

第三章 金錢物品ノ出納

第二十條 凡ソ出納ハ各廳長官ヨリ收支ノ命令ヲ
其會計主務官吏ニ下シ會計主務官吏ニ於テ其收支
ヲ執行スルモノトス

第二十一條 凡ソ出納ノ記簿ハ複記式ヲ用フヘシ若
シ其式様ヲ變更セントスル時ハ會計検査院ノ兼認

時ハ其事由ヲ大藏卿ヘ具申シ其許可ヲ受クヘシ但
大藏卿ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院ヘ通
知スヘシ

第十七條 各廳ニ於テ豫算外臨時ノ増費ヲ要スル
時ハ其事由ヲ太政官ヘ具申シテ許可ヲ受クヘシ太
政官ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院及ヒ大
藏省ヘ通知スヘシ

第十八條 府縣ニ於テ第十七條ノ場合アル時ハ其
事由ヲ大藏省ヘ具申シ大藏省ハ之ヲ太政官ヘ具申
シテ其許可ヲ請フヘシ太政官ニ於テ之ヲ許可シタ

ル時ハ會計検査院ヘ通知スヘシ

第十九條 各廳ニ於テ歳入豫算上ニ増減ヲ生スル
時ハ之ヲ大藏省ヘ通知シ大藏省ハ之ヲ太政官ヘ上
申シ會計検査院ヘ通知スヘシ

第三章 金錢物品ノ出納

第二十條 凡ソ出納ハ各廳長官ヨリ收支ノ命令ヲ
其會計主務官吏ニ下シ會計主務官吏ニ於テ其收支
ヲ執行スルモノトス

第二十一條 凡ソ出納ノ記簿ハ複記式ヲ用フヘシ若
シ其式様ヲ變更セントスル時ハ會計検査院ノ兼認

記簿

太政官
省ヘ咨問
於テ此
ハ

時ハ其事由ヲ大藏卿へ具申シ其許可ヲ受クヘシ但
大藏卿ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院へ通
知スヘシ

第十七條 各廳ニ於テ豫算外臨時ノ増費ヲ要スル
時ハ其事由ヲ太政官へ具申シテ許可ヲ受クヘシ太
政官ニ於テ之ヲ許可シタル時ハ會計検査院及ヒ大
藏省へ通知スヘシ

第十八條 府縣ニ於テ第十七條ノ場合アル時ハ其
事由ヲ大藏省へ具申シ大藏省ハ之ヲ太政官へ具申
シテ其許可ヲ請フヘシ太政官ニ於テ之ヲ許可シタ

ル時ハ會計検査院へ通知スヘシ

第十九條 各廳ニ於テ歳入豫算上ニ増減ヲ生スル
時ハ之ヲ大藏省へ通知シ大藏省ハ之ヲ太政官へ上
申シ會計検査院へ通知スヘシ

第三章 金錢物品ノ出納

第二十條 凡ソ出納ハ各廳長官ヨリ收支ノ命令ヲ
其會計主務官吏ニ下シ會計主務官吏ニ於テ其收支
ヲ執行スルモノトス

第二十一條 凡ソ出納ノ記簿ハ複記式ヲ用フヘシ若
シ其式様ヲ變更セントスル時ハ會計検査院ノ承認

太政官 於此等ノ場合ニ在リ大藏
省へ諮問アルハ徑前ニ通知スル事ナラン

ヲ請クヘシ

第二十二條 記簿ハ長官ノ命令書ヲ憑據トシテ之カ
記入ヲ為スヘシ

第二十三條 記簿ノ重要ナルモノハ日記簿、原簿、現金
受拂簿、豫算簿ノ四種トス其補助簿ヲ設クルハ各廳
ノ便宜ニ任ス

第二十四條 前條四種ノ帳簿ヲ取捨シ及ヒ補助簿ヲ
設クル時ハ會計検査院ノ承認ヲ請クヘシ

第二十五條 國庫ノ出納ハ別段ノ出納條規ニ據リ大
藏卿之ヲ管理スヘシ

國庫、出納

第二十六條 歳入ハ法律規則ニ指定セシ期限ニ據テ
之ヲ收入スヘシ

第二十七條 歳出中通常ノ費途ハ各廳（使府縣ヲ除ク）
ハ其年額ヲ十二分シ使府縣ハ之ヲ四分シ在外公館
ハ之ヲ二分シ其他ハ實際支消スヘキ時ニ臨ミ交付
スヘシ

第二十八條 大藏省ハ國庫ニ於テ日々出納ス
金額科目及ヒ事由ヲ詳記シ其毎翌日會計檢
報告スヘシ

第二十九條 歳入出決算上ニ於テ歳入ニ殘餘ヲ生セ

ヲ請クヘシ

第二十二條 記簿ハ長官ノ命令書ヲ憑據トシテ之カ
記入ヲ為スヘシ

第二十三條 記簿ノ重要ナルモノハ日記簿、原簿、現金
受拂簿、豫算簿ノ四種トス其補助簿ヲ設クルハ各廳
ノ便宜ニ任ス

第二十四條 前條四種ノ帳簿ヲ取捨シ及ヒ補助簿ヲ
設クル時ハ會計検査院ノ承認ヲ請クヘシ

第二十五條 國庫ノ出納ハ別段ノ出納條規ニ據リ大
藏卿之ヲ管理スヘシ

國庫、出納

第二十六條 歳入ハ法律規則ニ指定セシ期限ニ據テ
之ヲ收入スヘシ

第二十七條 歳出中通常ノ費途ハ各廳(使府縣ヲ除ク)
ハ其年額ヲ十二分シ使府縣ハ之ヲ四分シ在外公館
ハ之ヲ二分シ其他ハ實際支消スヘキ時ニ臨ミ交付
スヘシ

第二十八條 大藏省ハ國庫ニ於テ日々出納スル所ノ
金額科目及ヒ事由ヲ詳記シ其毎翌日會計検査院へ
報告スヘシ

第二十九條 歳入出決算上ニ於テ歳入ニ殘餘ヲ生セ

此ハ傳字ヲ取テ
カ尤モ金額科目
ノ月報ヲ改テ
改正セヨ

ヲ請クヘシ

第二十二條 記簿ハ長官ノ命令書ヲ憑據トシテ之カ
記入ヲ為スヘシ

第二十三條 記簿ノ重要ナルモノハ日記簿原簿現金
受拂簿豫算簿ノ四種トス其補助簿ヲ設クルハ各廳
ノ便宜ニ任ス

第二十四條 前條四種ノ帳簿ヲ取捨シ及ヒ補助簿ヲ
設クル時ハ會計檢査院ノ承認ヲ請クヘシ

第二十五條 國庫ノ出納ハ別段ノ出納條規ニ據リ大
藏卿之ヲ管理スヘシ

國庫出納

第二十六條 歳入ハ法律規則ニ指定セシ期限ニ據テ
之ヲ收入スヘシ

第二十七條 歳出中通常ノ費途ハ各廳使府縣ヲ除ク
ハ其年額ヲ十二分シ使府縣ハ之ヲ四分シ在外公館
ハ之ヲ二分シ其他ハ實際支消スヘキ時ニ臨ミ交付
スヘシ

第二十八條 大藏省ハ國庫ニ於テ日々出納スル所ノ
金額科目及ヒ事由ヲ詳記シ其毎翌日會計檢査院へ
報告スヘシ

第二十九條 歳入出決算上ニ於テ歳入ニ殘餘ヲ生セ

此ハ傳字ヲ在レシムルハ計書ナル
カ尤モ金額科目及ヒ事由ヲ詳記
シ月報ヲ改テ毎旬報トシ其後
ノ改正セハ可ナラン

シ時ハ之ヲ準備金へ繰入スヘシ

第三十條 各廳ノ出納ハ別段ノ出納條規ニ據リ該廳長官之ヲ管理スヘシ

第三十一條 各廳ノ歳入ハ各部ノ收額ヲ本廳へ採集シテ之ヲ大蔵省へ納付シ其歳出ハ大蔵省ヨリ本廳へ受領シテ之ヲ各部へ分賦スヘシ

第三十二條 各廳ニ於テハ毎年度ノ收入ト經費トヲ分テ其精算ノ既濟未済ヲ區別シ官省院廳局ハ毎月使府縣ハ每三月在外公館ハ每六月出納勘定帳ヲ翌月二十日マテニ調製シ之ヲ會計検査院及ヒ大蔵省

へ送付スヘシ

第三十三條 各廳ハ其歳入金額ヲ以テ直ニ之ヲ歳出ニ移用スルヲ得ス

第三十四條 各廳ハ經費決算大蔵省へ還納スヘシ

第三十五條 各廳現金及ヒ物品ノ管守并ニ其出納ハ該廳會計主務官吏又ハ大蔵省出納テ之ヲ掌トラシムヘシ

第三十六條 現金ノ管守出納ヲ銀行等ニ掌トラシムル時ハ成規ニ依リ抵當品ヲ差出サシムヘシ

シ時ハ之ヲ準備金へ繰入スヘシ

第三十條 各廳ノ出納ハ別段ノ出納條規ニ據リ該廳長官之ヲ管理スヘシ

第三十一條 各廳ノ歳入ハ各部ノ收額ヲ本廳へ採集シテ之ヲ大蔵省へ納付シ其歳出ハ大蔵省ヨリ本廳へ受領シテ之ヲ各部へ分賦スヘシ

第三十二條 各廳ニ於テハ毎年度ノ收入ト經費トヲ分テ其精算ノ既濟未済ヲ區別シ官省院廳局ハ毎月使府縣ハ每三月在外公館ハ每六月出納勘定帳ヲ翌月二十日マテニ調製シ之ヲ會計検査院及ヒ大蔵省

へ送付スヘシ

第三十三條 各廳ハ其歳入金額ヲ以テ直ニ之ヲ歳出ニ移用スルヲ得ス

第三十四條 各廳ハ經費決算ニ際シ其殘餘アル時ハ大蔵省へ還納スヘシ

第三十五條 各廳現金及ヒ物品ノ管守并ニ其出納ハ該廳會計主務官吏又ハ大蔵省出納局各銀行等ヲシテ之ヲ掌トラシムヘシ

第三十六條 現金ノ管守出納ヲ銀行等ニ掌トラシムル時ハ成規ニ依リ抵當品ヲ差出サシムヘシ

府縣

現金ノ管守

時ハ之ヲ準備金へ繰入スヘシ

三十條 各廳ノ出納ハ別段ノ出納條規ニ據リ該廳長官之ヲ管理スヘシ

二十一條 各廳ノ歳入ハ各部ノ收額ヲ本廳へ採集テ之ヲ大蔵省へ納付シ其歳出ハ大蔵省ヨリ本廳受領シテ之ヲ各部へ分賦スヘシ

十二條 各廳ニ於テハ毎年度ノ收入ト經費トヲテ其精算ノ既濟未済ヲ區別シ官省院廳局ハ毎月府縣ハ毎三月在外公館ハ毎六月出納勘定帳ヲ翌二十日マテニ調製シ之ヲ會計検査院及ヒ大蔵省

送付スハシ

十三條 各廳ハ其歳入金額ヲ以テ直ニ之ヲ歳出移用スルヲ得ス

十四條 各廳ハ經費決算ニ際シ其殘餘アル時ハ歳省へ還納スヘシ

十五條 各廳現金及ヒ物品ノ管守并ニ其出納ハ廳會計主務官吏又ハ大蔵省出納局各銀行等ヲシ之ヲ掌トラシムヘシ

十六條 現金ノ管守出納ヲ銀行等ニ掌トラシム時ハ成規ニ依リ抵當品ヲ差出サシムヘシ

太政官

府縣
管守ハ任月給ノ如キ据置ヲ許サレシムルハ
從前ノ條ニ於テハ六十一條ニ據リ
現金ノ管守ハ總テ大蔵省ニシテ

現金ノ管守ハ總テ大蔵省ニシテ
ハ切符ヲ以テ授受スルニナリ

作業費出納

第三十七條 作業費ノ出納ハ興業費ト營業費トニ區分シ興業費ハ之ヲ歲出ニ編入シ營業費ハ工事開始ノ際資本金額ヲ定メ之ヲ貸與スヘシ

第三十八條 營業資本金ハ營業上諸般ノ費途ヲ弁シ其回收ノ金額ヲ以テ之ヲ償還シ其餘ハ益金トシテ之ヲ大藏省へ收入ス若シ營業資本ニ^{欠額}ヲ生スル時ハ更ニ歲入ヨリ之ヲ補填スヘシ

出納閉鎖

第三十九條 出納ハ會計年度七月一日ニ於テ開始シ該年度經過ノ後ハヶ月ヲ限リ之レヲ閉

第四十條 各廳ニ於テ出納閉鎖ノ期ニ際シ若シ收入支出ノ決算ニ至ラサルモノアル時ハ其事由ヲ會計検査院及^テ大藏省へ開申シ翌年度ニ於テ其決算ヲ為スヘシ

第四十一條 出納閉鎖ノ後決算帳簿ノ検査上ヨリ差違ヲ生スル時ハ其額ニ限リ閉鎖後四ヶ月以内ニ之ヲ出納スルヲ得ヘシ

第四章 歳入出決算

第四十二條 凡ソ歳入出ノ決算ハ各廳收支ノ決算額ヲ會計検査院ニ証明シ該院ニ於テ其認可状ヲ附與

作業費出納

第三十七條 作業費ノ出納ハ興業費ト營業費トニ區

分シ興業費ハ之ヲ歲出ニ編入シ營業費ハ工事開始
際資本金額ヲ定メ之ヲ貸與スヘシ

第三十八條 營業資本金ハ營業上諸般ノ費途ヲ弁シ
其回收ノ金額ヲ以テ之ヲ償還シ其餘ハ益金トシテ
之ヲ大藏省へ收入ス若シ營業資力不足ヲ生スル
時ハ更ニ歲入ヨリ之ヲ補填スヘシ

出納ノ開閉

第三十九條 出納ハ會計年度七月一日ニ於テ之ヲ開

始シ該年度經過ノ後ハヶ月ヲ限リ之レヲ閉鎖スヘ
シ

閉鎖期各
大藏省ノ開
得ヤリ

第四十條 各廳ニ於テ出納閉鎖ノ期ニ際シ若シ收

入支出ノ決算ニ至ラサルモノアル時ハ其事由ヲ會
計検査院及大藏省へ開申シ翌年度ニ於テ其決算
ヲ為スヘシ

第四十一條 出納閉鎖ノ後決算帳簿ノ検査上ヨリ差
違ヲ生スル時ハ其額ニ限リ閉鎖後四ヶ月以内ニ之
ヲ出納スルヲ得ヘシ

第四章 歳入出決算

第四十二條 凡ソ歳入出ノ決算ハ各廳收支ノ決算額
ヲ會計検査院ニ証明シ該院ニ於テ其認可状ヲ附與

大
女
宮

第三十七條

作業費ノ出納ハ興業費ト營業費トニ區分シ興業費ハ之ヲ歲出ニ編入シ營業費ハ工事開始ノ際資本金額ヲ定メ之ヲ貸與スヘシ

第三十八條

營業資本金ハ營業上諸般ノ費途ヲ弁シ其回收ノ金額ヲ以テ之ヲ償還シ其餘ハ益金トシテ之ヲ大藏省ヘ收入ス若シ營業資本不足ヲ生スル時ハ更ニ歲入ヨリ之ヲ補填スヘシ

第三十九條

出納ハ會計年度七月一日ニ於テ之ヲ開始シ該年度經過ノ後ハヶ月ヲ限リ之レヲ閉鎖スヘシ

閉鎖期限各廳ト大藏省ト
大藏省ノ閉鎖
定引等ル
得ヤリ

第四十條

各廳ニ於テ出納閉鎖ノ期ニ際シ若シ收入支出ノ決算ニ至ラサルモノアル時ハ其事由ヲ會計検査院及大藏省ヘ開申シ翌年度ニ於テ其決算ヲ為スヘシ

第四十一條

出納閉鎖ノ後決算帳簿ノ検査上ヨリ差違ヲ生スル時ハ其額ニ限リ閉鎖後四ヶ月以内ニ之ヲ出納スルヲ得ヘシ

第四章

歲入出決算

第四十二條

凡ソ歲入出ノ決算ハ各廳收支ノ決算額ヲ會計検査院ニ証明シ該院ニ於テ其認可状ヲ附與

太
文
官

スルモノトス

第四十三條 歳入出ノ決算ハ歳入ニ於テハ現金ヲ大蔵省出納官吏ニ納付シ其領收書ニ據リ歳出ニ於テハ現金ヲ正當ノ請取人へ交付シ其領收証書ニ據リ其他ノ歳出ニ属スヘキモノハ其文書ニ據テ之ヲ為スヘシ

歳入ノ決算

第四十四條 各廳ハ法律規則ニ指定シタル各種租税ノ皆納期限後四ヶ月以内ニ皆濟帳ヲ作リ之ヲ大蔵省へ送付スヘシ

第四十五條 大蔵省ハ各廳ヨリ送付セシ租税皆濟帳

ヲ調査統計シ租税決算帳ヲ編成シテ翌年度三月三十日迄ニ之ヲ會計検査院へ差出スヘシ

第四十六條 各廳ハ毎會計年度作業益金及ヒ雜收入ノ決算帳ヲ編成シ翌年度二月迄ニ會計検査院へ差出スヘシ

第四十七條 各廳ハ毎會計年度貸付金返納ノ期約ニ從ヒ收入セシ員額ヲ調理シ其勘定帳ヲ編成シテ翌年度八月三十日迄ニ之ヲ大蔵省へ送付スヘシ大蔵省ハ此勘定帳ヲ調査統計シ決算帳ヲ編成シテ其三月三十日迄ニ會計検査院へ差出スヘシ

歳出決算

第四十八條 大蔵省ハ毎會計年度國庫ノ出納、國債償還、紙幣支消、準備金ノ收支、起業基金受拂、決算帳ヲ編成シ翌年度三月三十日迄ニ會計検査院ヘ差出スヘシ

第四十九條 各廳ハ諸經費ノ決算帳ヲ編成シ翌年度二月迄ニ會計検査院ヘ差出スヘシ

第五十條 各廳經費中建築等ノ費項ニシテ該年度最初決定ノ豫算書ニ科目金額ヲ明載シ既ニ着手セシモノ、事故アリテ豫算ノ如ク竣成ニ至ラス翌年度ニ跨ルノ類ニ限リ三ヶ月間決算ヲ延期スヘシ其延

期ヲ要スルモノハ事由ヲ具シ會計検査院ノ兼認ヲ請クヘシ但豫算決定ノ後他費流用又ハ増費等ヲ以テ起業セシモノハ第二條ニ據リ六月三十日ヲ以テ決算スヘシ

第五章 雜則

第五十一條 準備金ハ其管理ノ規程ニ據リ大蔵卿之ヲ管守ス

第五十二條 大蔵省ニ於テハ每月常用金ノ在高其種類ノ内譯及ニ國債額準備金起業基金貸付金預ケ金、抵當品預リ金等ノ増減及ニ種類ノ内訳表ヲ調製

準備金管理

諸報告

シ翌月七日迄ニ會計検査院へ報告スヘシ

第五十三條。大蔵省ハ毎會計年末ニ於テ該年度ニ属スル收支ヲ概定センカ為メ其現出納及テ将来收支スヘキ員額ヲ調理シテ歳入出概定表ヲ製シ八月二十五日迄ニ太政官へ進達スヘシ

第五十四條。製造場等ヲ管スル各廳ハ毎會計年度其作業ノ損益及テ資本金償却等ノ計算報告書ヲ作り決算帳ト共ニ之ヲ會計検査院へ送付スヘシ

第五十五條。各廳ハ本廳及テ各部局ニ供用スヘキ諸物品ノ出納ヲ毎三ヶ月ニ區分シ其計算表ヲ翌月二

十日迄ニ調整シ之ヲ會計検査院へ送付スヘシ

第五十六條。各廳ハ本廳及テ各部局所管ノ地所家屋其他官有財産ノ種類ヲ分チ價額ヲ附シタル計算表ヲ製シ毎五年大蔵省へ送付シ其増減アル時ハ其時々之ヲ通知スヘシ大蔵省ハ之ニ總計表ヲ添付シ毎年會計検査院へ差出スヘシ

第五十七條。各府縣ハ定規ニ依リ地方稅收入支出ノ豫算及テ決算報告書ヲ製シ内務大蔵兩省へ進達シ内務大蔵兩省ニ於テハ査閲兼認ノ上總計表ヲ添付シ會計検査院へ報告スヘシ

第五十八條 凡ソ官金ノ棄捐ヲナサントスルハ其
狀ヲ具シ太政官ノ裁可ヲ請フ可シ太政官ニ於テ之
ヲ許可セシキハ會計檢査院及ヒ大蔵省ヘ通知スヘ
シ

第五十九條 豫算調書、統計豫算書、及ヒ豫算ニ付大蔵
卿ノ意見書、決算書、報告書、出納記簿上ニ於テ金員科
目等ハ改削塗抹ヲ為スヘカラス但會計檢査官ノ兼
認ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第六十條 各廳並諸製造場等ノ物品會計ノ細則ハ
別段ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

出納記簿上ニ於テ
改削塗抹ニ付

第六十一條 此法ニ矛盾スル從前ノ法規ハ廢止トス

大
文
官

第五十八條 凡ソ官金ノ棄捐ヲナサントスル片ハ其
狀ヲ具シ太政官ノ裁可ヲ請フ可シ太政官ニ於テ之
ヲ許可セシ片ハ會計検査院及ヒ大蔵省ヘ通知スヘ
シ

第五十九條 豫算調書統計豫算書及ヒ豫算ニ付大蔵
卿ノ意見書決算書報告書出納記簿上ニ於テ金員科
目等ハ改削塗抹ヲ為スヘカラス但會計検査官ノ兼
認ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第六十條 各廳並諸製造場等ノ物品會計ノ細則ハ
別段ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

出納記簿上ニ誤字等アル時
改削塗抹ニ依リ得ルナリ

第六十一條 此法ニ矛盾スル從前ノ法規ハ廢止トス

太
文
官

